

令和3年度 第2回学校運営協議会報告

- 1 日 時 令和3年10月26日(火)
- 2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校
- 3 内 容
 - (1) 授業参観 「作業学習(ものづくり)」
 - (2) 学校経営についての意見交換

4 議事録(要約)

教頭挨拶

- ・今年度は、学校運営について御意見を伺い、さらに参画をお願いしている。
- ・教育活動への協力や地域への発信なども御協力願う。

委員からの質問、提案など

①授業参観の感想など

- ・黙々と活動している生徒や製品について説明してくれる生徒がおり、よく分かって取り組んでいる様子が見えた。
- ・コロナ禍の中、久しぶりに生徒の活動を近くで見ることができた。地域は生徒との触れ合える機会を求めている。コロナ禍で疎遠になることが心配。
- ・好きな活動に取り組んでいる様子が見えた。将来も生徒が興味を持てる活動に取り組めるとよい。
- ・作業は、プロでも安全で楽に(効率的)できるよう工夫しないと続かない。そういったことも生徒自身が考えられるとよい。
- ・地域の職人や福祉事業所、地域の産業などと連携していくと将来の就労や学習活動の広がりにつながる。(木工、塩づくり、染色、観光案内など)
- ・福祉施設の仕事も減っていると聞く。仕事をもらうだけでなく、付加価値(ブランド化)を付けるなど仕掛けていくこともこれから必要になる。
- ・地域の方や専門家の力も活用して、一人一人の課題に応じた学びを深めていけるようにしたい。3年後、10年後を見据えて取り組みたい。

②前期学校評価について

- ・会議等の多さは、出張によるものか。最近では、どこもZOOMなどオンラインの研修が増えており、移動の負担が減った。
- ・目が離せない生徒もいるので、会議は放課後になってしまうだろう。
- ・会議の精選については、みんなで共有する必要もあるものは減らせない。
- ・卒業後を考えると、少人数で教師が見守り、生徒が主体的に活動できる状況づくりをしたい。研修でも取り組んでいる。

③新型コロナウイルス感染予防を図る中での教育活動について

- ・警戒レベルが下がり、地域との活動も増えてきている。感染症対策をして安全・安心を確保しつつ、質の高い経験を進めていきたい。

④松崎高等学校および地域との共生・共育について

- ・緊急事態宣言期間も協議し、工夫して間接交流などを行ってきた。(活動

紹介スペースの設置、松高生へのアンケート、ベンチの製作・設置など)
・警戒レベルが下がり桜葉、桑葉等の地域作業、棚田活動、ボッチャ交流、
芸術祭参加などが始まっている。

⑤不祥事根絶の取り組みについて

・他地域では、新聞報道もあるが、不祥事ゼロ。引き続き取り組みたい。

⑥その他

- ・農福連携事業の紹介（オールしずおか「かわら版」）。雇用したくてもどうして良いか分からなかったり、小規模だったりする事業所を開拓。
- ・障害のある人の職場定着については、周りの職員の理解が欠かせない。同じ仕事量を求めるのではなく、想像力を持ち、特性を理解できるよう働きかけるとともに、どの人にも優しい職場づくりが求められている。
- ・活動が分かること、できること、認められることが大切。そうできるように周りの理解を得ていきたい。